

## 2019年度イマージョンプログラム 概要報告

2019年6月18日～27日 :

33 (アメリカ31名、イギリス1名、オランダ1名) 名  
教育関係者に対する授業研究プログラムの開催。

### <日程>

- 6月18日(火): 開講式, 基本講義, 教材研究ワークショップ
- 6月19日(水): 国立市立国立第五小学校 校内研究会の参観
- 6月20日(木): 調布市立布田小学校 授業参観
- 6月21日(金): 山梨県昭和町立押原小学校 校内研究会の参観
- 6月22日(土): 山梨大学教育学部附属小学校 公開研究会の参観
- 6月23日(日): 休日
- 6月24日(月): 府中市立府中第一小学校 授業参観
- 6月25日(火): 東京学芸大学附属小金井中学校 授業参観
- 6月26日(水): 大田区立田園調布小学校 大田区算数部研究会
- 6月27日(木): 総括討議

### <担当>

- ・ プログラム開発・指導講評: 藤井齊亮, 太田伸也, 中村光一, 西村圭一, 清野辰彦, 成田慎之介
- ・ 講師: 高橋昭彦
- ・ 講師兼通訳・翻訳: 渡辺忠信, 吉田誠
- ・ 研修マネジメント: 松田菜穂子
- ・ 引率・機材: 會田 傑、修士・博士課程の学生複数名

<内容> \* 同内容が IMPULS Facebook page に掲載済み

## 6月18日

今年は、アメリカ、イギリス、オランダから合計 33 人の現職の先生や研究者が参加しています。初日は、日本の授業研究と問題解決型授業についてのワークショップを行いました。日本の校内研で、ある学年の算数の研究授業を他の学年の先生や養護教諭なども見に来ることについて、なぜ日本はそんなことをしているのか？なぜできるのか？例えばこんな質問も上がりました。明日からいよいよ、都内と山梨県内の学校にお邪魔し、校内の研究会や地域での研究会を参観させていただく予定です



## 6月19日

プログラム2日目は、都内の公立小学校にお邪魔し、5年生の比例の研究授業とその協議会を参観させていただきました。日本の「板書；bansho」を初めて見た先生の中には、「板書も子どもたちのノートも、非常に組織化されていて驚いた！」という感想を述べる方もいました。そして研究協議会の後には、参観した授業について、「課題の数値設定は検討班でどう決めてきたのか」という質問や、「アメリカでもここは難しいところだ」という感想が述べられました。

そしてそのあとの懇親会では、日本の先生たちを囲んだ「Kampai」と「Sambonjime」で大変盛り上がりしました。



## 6月20日

プログラム3日目、午前中時間をかけて、前日参観した研究授業と協議会について振り返りを行いました。課題の場面設定・数値・提示の仕方、表の利用について、メモや写真などの記録を元に話し合われました。午後は、都内の公立小学校の普通の算数の授業を参観させていただきました。5年生「小数のわり算」導入の第一時間目、クラスによって様々な観察結果が報告されました。あるクラスでは、子どもから様々な解決方法が提示され、それを子ども達と先生で分類していったこと、別のクラスでは教科書を用いながらこれまでの既習事項の振り返りをしていたこと、等、教科書も課題も目標も同じ授業でも異なる授業の姿にいくつかの気づきがありました。後半には、校長先生と授業者の先生も加わり、授業についての質問をさせていただきました。特にアメリカの先生は、習熟度別の学習について、なぜそうしているのか、どうやってクラス分けをしているのか、日本の先生に鋭い問いを投げかけました。



## 6月21日

今日から2日間は、山梨にてプログラムを開催しています。本日は山梨県内の公立小学校を訪問しました。校内を自由に見学させていただいたところ、運良く「分数の割り算」の授業をしていたクラスがあり、多くの方が足を止め見入りました。日本は普通の授業でも Teaching through problem solving であることをその目で見て確かめることができました。給食交流会では、日本の子どもたちは外国の先生に緊張しながらも英語で話しかけ、それが伝わると誇りに満ちた笑顔を見せてくれました。午後の研究授業は、3年生の「あまりのある割り算」、問題場面に応じた余りの処理の仕方を考え説明することがねらいの授業でした。協議会では、各先生が観察していた児童の実態が詳しく報告されました。夜は宴会で大盛り上がりでした。





## 6月22日

本日は、山梨大学教育学部附属小学校の公開研究会に参加し、1年生「のこりはいくつちがいはいくつ」と、4年生「角の大きさの表し方を考えよう」の研究授業と協議会を参観しました。研究協議会に、県総合教育センターの指導主事、山梨大学からの共同研究者、県内の公立小学校からの研究協力員が加わった全国レベルでの公開研究会（Cross-district lesson study）の様子を参加者たちは熱心にメモをとり参観していました。武田神社の算額を見てから、河口湖へ・・・残念ながら富士山は今日も姿を見せてくれませんでした。



## 6月24日

いよいよイマージョンプログラムは折り返しを迎えました。本日は都内の公立小学校を訪問し、5年生「小数のわり算」の授業を参観させていただきました。習熟度別のクラスの4クラスのうち2クラスに通訳が入り、参加者自身の興味関心に合わせた観点で自由に参観し、疑問点や参観したことを話し合いました。6年生による鼓笛隊の大迫力の演奏を鑑賞し、交流会では、かるたやこま、けん玉、あやとり、など日本の遊びを一緒に楽しみました。



## 6月25日

本日は、東京学芸大学附属小金井中学校の3年生「文字式の証明」の授業を参観させていただきました。10日間のプログラムの中で、中学校の数学の授業を参観する唯一の機会でした。授業の後には、高橋先生が司会の見本となりながら、参観者間で授業で観察したことがや疑問点について協議を行いました。協議会が単なる報告会に終わらないよう、司会者は意見を束ねながら議論を深めていくこと、まさに協議会の練り上げが求められます。協議の後半には、授業者の先生に加わっていただき、疑問点に答えていただきました。研究授業だけでなく、日々の授業から、どのように生徒の学習状況を把握しているか、教材研究として事前にどのような生徒の反応を予想していたか等、を具体的な1授業を通して知ることができました。



## 6月26日

本日は、区レベルでの授業研究会を参観させていただきました。「児童が数学的な見方・考え方を働かせて、学びを深めるための指導のあり方」という区の研究主題のもと、指導案には研究会場校の児童が抱える課題と、それに対する具体的な教材提案が詳細に記載されていました。体育館で行われた研究授業には、区内から大勢の先生が集まり参観していました。指導助言者は、今日の授業において「考える」とはどういうことだったか、活動の目的は何であったか、全体に問いかけました。子どもがどう図形を見ているかその一つの見方として van Hiele の学習水準論に触れながら、今日の子どもの活動の様子が具体的な証拠とともに考察されていきました。また、特に「めあて」を教師が明示的に示すべきかどうかについても多くの議論がうまれました。最後に、イマージョンの代表者から日本の先生にコメントが伝えられました。「教師の下から持ち上げるようなサポートのもとで子どもが数学をつくっていくことや、分類するという今日の活動の中で図形の定義や用語を必要とする場面があったこと、非常に多くのことに感銘を受けました。」「1つひとつの知識の理解ではなく数学的な考え方が育つように子どもが育っていることや、主張したいことをしっかり伝えている姿に、大変感動しました」明日はイマージョンプログラムのまとめをします。





## 6月27日

イマージョンプログラム最終日、午前中はたっぷり時間をかけて、前日に参観した研究授業と協議会についての振り返りを行いました。午後は、イマージョンプログラムに参加することによって授業研究についての見方がどう変化したかをグループごとに話し合い、ポスターにまとめました。例えば「自分の子ども、自分の学校、ではなく”自分たちの”子ども、”自分たちの”学校という見方に変わったこと」や、「共有化された専門性を持ったコミュニティが生まれること」など、新しい気づきがあったことが発表されました。最後に、どんな授業にももっとよりよくできる場所が必ずあること、そして理想的な授業研究とはどうあるべきかを考えながら進めていくことが大切であるということがハイライトされ、最ここでの出会いきっかけとなり、お互いの学校や地域の研究会が盛り上がっていきそうです。

